

## 【多摩丘陵・私の出会った生き物たち13】

### < 早春の虫たち >

桑原紀子

3月5日は二十四節気の啓蟄の日。冬の間地面に潜っていた虫たちが、戸を啓いて地表に出てくるといふ、春の始まりの日です。啓蟄にはまだ少し早いのですが、私も虫たちのように野外に出てみました。

雑木林の木々の梢はふんわりと膨らみ、冬芽が光をみなぎらせて輝いています。鳥たちはさえずりを始め、無事越冬したキタテハという蝶が枯れ草の上で、日向ぼっこをしています。厳しい冬を乗り切った生き物たちの喜びが伝わってきて、心がときめきます。

春一番の出会いには、1センチほどの小さなホソヒラタアブです。光沢のある黄と黒の縞模様の体に大きな赤褐色の目、2枚の透明の羽をせわしなく震わせながら、オオイヌフグの花の蜜にきています。幼虫はうじの形でアブラムシを食べて育つのですが、どこでどのように変身してこの可愛い春の使者になるのだろうと、目を近づけて見とれてしまいます。成虫になった今は、花の蜜をなめて暮らすのです。

枯れ草の野原には、ピロウドツリアブが小さな丸っこい体でホバーリングしています。1センチほどの体は壺形で長い口吻を持ち、全身ピロウド状の茶褐色の毛に覆われています。

陽だまりの花の蜜を吸い、地面の枯葉などに止まって日光浴しています。止まっていると地面に紛れてしまうので、不意に足元から飛び出して驚かされます。ピロウドツリアブは、その可愛い姿と敏捷な飛び方など、私の好きな虫の一つです。

早春の小さなアブたちに続いて、暖かい日にはミツバチや蝶が姿を現すようになります。

数年前の啓蟄の日、まだ冬枯れの野原で、羽化したばかりのスジグロチョウに出会った思い出があります。柔らかく弱々しい白い翅は、周囲の枯れ草色の中でひととき目立ち、生きていけるかなと心配になりました。

野生の生き物が春を感じる力は、私などの及びもつかない強さなのでしょう。三寒四温を繰り返しながら季節は春に向かい、生き物たちは準備が整うと、それぞれのやり方で戸を啓いて地表に現れるようです。春の光の中にどんな虫たちが登場するか、少し小さなものに焦点を当てて観察すると面白いですよ。

小さなものからというように、虫たちは春の光の中に姿を現します。そしてそれぞれの生命を精一杯生きるのです。